

胚(受精卵)凍結保存についての当院の規定 (医学的適応)

<凍結の開始>

- 胚の凍結保存期間は、凍結日から1年間です。この間の保存費用は5万円+消費税<2個目~5,000円/個加算>です。

(例:H26年5月10日に凍結開始の場合、H27年5月9日までが保存期間です。

以降1年毎に30,000円<別途消費税>の凍結延長保存費用が必要です。)

- 胚の凍結保存費用は、凍結開始後2週間以内に支払していただきます。

<患者様から当院への連絡義務>

***当院から患者様に、凍結延長されるか廃棄処分されるかの連絡をする義務はありません。**

- ①保存期間満了までに、凍結保存期間を延長するか、廃棄するかを、必ず当院に連絡しなければなりません。
***万が一、保存期間内に連絡がない場合、または、凍結保存費用の支払いがない場合は、保存延長の意思がなく保存胚の処分権を放棄したものとみなし、胚は廃棄処分します。**
- ②連絡先(住所や電話番号)を変更する場合は、1か月以内に必ず当院に連絡してください。
何の意思表示もなく連絡先が不明となり、連絡が取れない場合、保存胚の処分権を放棄したものとみなし胚は廃棄処分します。
- ③離婚または事実婚を解消した場合や配偶者が死亡した場合は、1か月以内に当院に連絡し、当院所定の書類に署名し、当院に提出しなければなりません。
これは、日本産科婦人科学会の会告『凍結された胚の保存期間は、被実施者夫婦が夫婦として継続している期間であって、かつ卵子を採取した女性の生殖年齢を超えないこととする。』に従うものです。
この場合、または、当院が離婚または事実婚の解消や死亡の事実を確認した場合、胚は廃棄処分します。
- ④事実婚夫婦が婚姻した場合も、速やかに当院に連絡してください。
- ⑤夫婦の一方が行方不明になった場合も、1か月以内に当院に連絡してください。
行方不明の間は、保存胚は行方不明でない配偶者に帰属します。
しかし、この間は夫婦双方の意思が確認できないため、胚移植は実施できません。
- ⑥夫婦の少なくともどちらかが、凍結胚の移植を希望されない場合は、その時点ですみやかに当院へその旨を必ず申し出てください。
- ⑦夫婦の一方が廃棄を希望した場合は、その時点ですみやかに当院へその旨を必ず申し出てください。胚は廃棄処分します。

<延長>

- ①凍結の延長を希望する場合は、保存期間満了までに当院に連絡し、当院の定める延長費用を支払わなければなりません。(1年毎に3万円+消費税)
- ②凍結延長保存費用は、凍結延長開始日の1週間前までに、1年分を前払いしていただきます。
- ③凍結期間内であっても、生殖年齢(当院の場合は50歳)を超えた場合は凍結期間の延長は受け付けません。
- ④凍結保存期間中に、当院で定める延長費用や保存期間に改定があった場合は、保存期間の延長手続き時から、改定された最新の保存費用と保存期間が適用されます。

<廃棄>

- 廃棄を希望する場合は、当院所定の書類に署名し、当院に提出しなければなりません。

<凍結胚の融解を希望する場合>

- 凍結胚の融解を希望する場合は、当院所定の書類に署名し、当院に提出しなければなりません。

妻 氏名 : _____

夫 氏名 : _____

住所 : _____

電話番号 : (妻携帯) _____ (自宅)

(夫携帯)